

## おめでとう！ 久野藍里さん

写真は『AJU はるよ こい』193号、2019年2月5日。レポートでも紹介してきたように、名古屋の林京香さんや「全国高校集会」などを寄稿してきた。その縁もあって、編集人の名古屋「障害児・者」生活と教育を考える会から送ってもらっている。貴重な「情報誌」である。

今号の表紙の写真は、昨年12月5日に行われた平成30年度「障害者週間」関係表彰式である。表彰状を受け取っているのは、内閣府「心の輪を広げる体験作文」【高校生区分】で最優秀賞（内閣総理大臣賞）を受賞した久野藍里さん。藍里さんは現在、名古屋市立中央高校の3年生。

藍里さんの話を数年前に聴いて、それ以来、何回か話したことがある。いつも笑顔が印象的だ。フェイスブック仲間でもあり、藍里さんの苦悩や悩み、そして楽しい出来事などに一喜一憂してきた。藍里さんが最優秀賞を受賞して、こんなに嬉しいことはない。「共生社会の中に飛び込んでみて」と題した心に迫る作文の最初と最後を紹介したい。



私は生まれつき脳性マヒで車イス生活です。

小学校時代、地域から離れた小学校の特別支援学級に6年間在籍していました。その間、もっと普通級の子と同じように勉強がしたいという思いと友達が欲しいという思いが強くなり、母と相談をして地域の中学校の普通級に入学する事を決めました。地域の友達が全くいない状況からのスタートとなりました。

（このあと中学生生活、2年の浪人生活を経て晴れて高校生となり、部活や生徒会などが綴られる）

一般に言う、普通の学校に行って一番良かったと思う事は、自分が小学校で経験しそこなかった事、友達関係の事、勉強の重要性等、知らなかった世界を知る事ができた事です。しかし、今、障害の重い人達が高校や大学に入る事はむずかしく、学力社会の中にあると思います。共生社会を実現していくためには、どのような障害のある人でも当たり前でその場に行ける事が一番大事だと感じました。一部の障害のある人だけが学びの場に行く事ができているという状況に留めてほしくないです。

私は、自分の歩んだ経験を通し、障害のある人達の相談にのれる福祉の仕事に就きたいです。英語が好きなので、大学で語学力を伸ばし、それを活かしながら海外での福祉の状況も視察し、良い所は日本の中に取り込んでいく事ができれば良いなと思っています。そして私は、共生社会を担う事のできるような人材として活躍していきたいです。

(2019年2月6日)